

(財)合気会神戸支部
支部発足30周年記念!

— △ ○ □ —
精武館通信

652 神戸市兵庫区石井町8-2-12
☎(078)521-3343

支部発足30周年を迎えて 支部長・山端一夫／八段

合気道・(財)合気会神戸支部が発足して30周年を迎えることが出来たことは、誠にお目出たく感慨深いものがあります。

思い出しますに昭和34年7月神戸支部として発足しましたが、練習場所もなく生田警察署の道場を借り米持先生のご指導の元、月・金曜日を稽古日として始めたのが最初でした。その後、兵庫区石井町に道場を建設し精武館の名称で合気道を始めましたが、剣道・詩吟なども含め青少年の修養道場として今も活用されています。

現在は横田道場長、濱崎両先生にご指導を願っております。私事で申し訳ないのですが毎日多忙を極める昨今、先生方には随分とご迷惑をお掛けしています。また発足当初、本部の植芝先生(現道主)にはお忙しい合間を縫って、幾度となく精武館でご指導を頂きました。今は本部の遠藤先生にご指導を頂き、大変お世話になっております。

合気道と私の結びつきも30有余年の歳月を数えますが、致らぬ私をして常に人間修養の上に大きな力となっているような気が致します。塾生の内からも次々と実業界に社会にと雄飛活躍をせられつつある逸材が巣立っております事は、嬉しい限りであり私の誇りとさえ思っています。私も昨秋、図らずも“勲五等瑞宝章”叙勲の栄を賜りました事は生涯の感激と感謝でございました。

我が国も昭和から平成年代へと大きく様変わり致しました。これからも益々よりよき社会の為に、また地域の発展の為に微力を注ぎ続けたいと念願致しております。

皆々様のなお一層のご支援とご指導をお願い致します。



《 目次 》

支部発足30周年を迎えて---山端一夫--	1	合気道について-----李珠玲--	10
発刊によせて-----横田金典--	2	これからもがんばるぞ!---片山摩耶--	10
30年を顧みて-----濱崎正司--	2	合気道-----李耿榮--	11
それぞれの出会い-----打越明夫--	3	合気道-----鄭成浩--	11
事務局から見た30年-----村上強--	4	合気道-----竹内ゆう子--	11
神戸支部・第二道場-----中尾眞吾--	4	合気道について-----住岡亜紀--	11
合気道との出会い-----小久保宏--	5	中尾先生と村上先生の違い-竹内亮介--	12
私と合気道-----松平秀利--	5	合気道を始めて-----高見馨--	12
ロマンをもって・-----中田越子--	6	合気道と子供、私の考え-----李華勝--	13
合気道と私-----中睦治--	6	合気道と子供達-----片山喜代美--	13
どうもありがとう・-----フィリップ--	7	合気道-----竹内めぐみ--	14
きをつけて-----ミリヤム--	7	親子で合気道-----佐治保津美--	14
合キチ達-----中尾美枝子--	7	神戸支部紹介記事(合気道新聞S51.6)-	15
横田/浜崎先生昇段祝賀会-----曾川治--	8	アンケート/神戸支部31人に聞きました-----	16
子供達と私-----中尾眞吾--	9	神戸支部及び関連道場案内-----	20
合気道について-----住岡美樹--	10	編集後記-----	20
合気道について-----片山瑞穂--	10		

発刊によせて

道場長・横田金典／七段

今度、小久保さん、和田さんらの発意と御尽力で、支部報が発刊される事になった。考えてみれば支部も、発足以来30年余りになるというのに、あまり記録というものがない。断片的な写真がパラパラである。この間の、支部なりの歴史、流れがどんなものであったか、去来していった数多くの人々の思い、心のヒダがどうであったか。これらを留めるものは何もない。あればもっと豊かであったろう。

只、毎回毎回の稽古がその時なりに自分の稽古になればよい、とのみ念じて今日まで来てしてしまった。自分の狭さを恥じる。にも拘らず30年余も、アマチュアながらユニークな支部として稽古を続けてこられたのも、陰になり日向になり支部を支えていただいた数多くの方々の力強い御支援、御尽力があったからである。

先ず何よりも、当支部が今日あるのも山端支部長のおかげである。発足当初より支部長としてお世話いただき、不肖私の身勝手を全面的に許していただくばかりか、本精武館を当地に設け、先代、当代道主を含む高名な数多くの師範を招聘して御指導をうける機会を与えて下さり、現在に至るも変わらず暖かい御支援を続けていて下さる梅の如き御配慮の大きさを思う。

濱崎さんをはじめ、長年一緒に今日まで稽古に、稽古後の打ち上げに、辛抱強くおつきあいいただき、支部なりのやり方を支え築いてくださった皆様の忍耐を思う。

いつも控え目ながら、長年事務局として面倒な支部の裏方処理を一手に引受け、スムーズに処理していただいている村上さん。御本人はすでに還暦も迎えられたとか。日頃の御尽力に加え、御本人の粘り強い稽古ぶりにはただ敬服。何人の人の励みになっていることか。

中尾さん御夫妻をはじめ、第二道場でも頑張る方々の明るく大らかな活動ぶりが支部の新しい柱として広がって来ていることが誠に喜ばしい。

見様見真似でとにかく30年。熱心、精進にはほど遠い、いい加減な稽古を続けてきただけに、技や道に対する迷い、不安、

恐れ、焦燥は稽古を始めた頃と少しも変わらぬばかりか、最近の体力の衰えはおおうべくもない。しかしここまで来れば私の合気道も私の生活の拡がりの一つとなっている事は確か。だからというわけでもないが、支部の皆様方にもどうか稽古を続けて、御自分なりの合気道を見つけてほしい。これが私の希いである。

稽古後の一杯はいる団樂に加えて、本紙がもう一つの交流の場となれば幸いである。

30年を顧みて

濱崎正司／六段

平成元年に六段に昇段が許され、大変光榮に思っています。これも支部長、横田師範をはじめ、皆様の御指導のお蔭と感謝しております。

30年余も自分勝手なことが出来たのは、多くの方々の御協力と、家族の理解に依るものと思っています。この六段は自分の努力へというよりも、協力者への感謝状と思ひ大切にします。これからは六段として恥じない稽古をして行きますので、どうぞよろしくお願い致します。

私は神戸生れ、神戸育ちの神戸っ子です。その上に道場の稽古で言えば、生粋の「神戸道場っ子」です。

神戸支部の初めの頃は、平日の水・土曜日は旧生田警察署の柔道場、日曜日は石井町の道場で稽古で、人数も少なく新米は大変でした。

その頃の私は比較的「力と体力」には自信を持っていましたが、若い女学生に四方投げと呼吸で強烈に投げつけられて発奮、彼女に勝ちたいと稽古に励んだことと、横田先生との出会いが、私に今日まで合気道を続けさせてきたのだと思っています。

また神戸道場には本部の数多くの師範が指導にこられ、直接手を取って指導を受けたことが今も思い出されます。

それ以前になりますが、神戸支部を作られた米持先生が名古屋に転勤になり、彼の地でも道場を開かれ、神戸支部も招かれ名古屋の体育館で、演武を初めて行なったことが思い出されます。その時、植芝盛平先生の演武を目の当たりに見ることが出来、

その上、白扇で押えられたことなどが思い出されます。

又、神戸支部よりヨーロッパ夏期講習会へ横田先生と二人して参加した際の、多田先生や他の先生方による指導も思い出されます。

近年では遠藤師範による神戸支部での指導は老若男女を問わず大きな刺激となっており、いまさらに師範の影響力の大きなことを肝に命じています。

横田先生と私との初めての出会いは、昭和33年11月頃であったろうと思います。稽古の帰りが同じ方向であった関係から駅まで「赤ちょうちん」経由で帰るパターンとなり、その時々話題が大変楽しみでついつい1杯が2杯になり、それが現在まで続いており、2人は「先生と弟子」の関係のようでそうでないような、分かりにくい関係です。

今は百才コンビなどと言われていますが、これからも努力をして百十才、百二十才と体の動く間は、皆様の足手まといにならないよう続けて行きたいと思っています。

今後は私が教えを受けた分を皆様に引継ぐよう努めてゆく所存ですが、有段者の皆様は入門者が来れば基本を正しく御指導して頂くようお願いしたい。後継者の養成に力点を置き、長く続けられるようにしてください。

新しい人を教えることは自分自身を鏡で見るように勉強になります。さらに人との出会いが新しい出発となります。

当道場の特徴は、皆様も御存知の通り、山端支部長、横田先生を中心にしたアマチュアのクラブである点、先生の考えで型にはめない点であろうと思います。

これは他の道場の経験者がよく口にすることであるが、当道場では自らの方法で長く続けることにより他の道場にひけを取らないと私は思っています。今後もこの方針を貫けるようお願いしたい。

ますます会員数が増えこの道場が繁栄することを祈り、年に何回かのニュースが発行されることを楽しみにしています。

それぞれの出会い

打越明夫／四段

昭和40年6月に、合気道と出会った。今年で早24年目だ。

18才の時に会社の先輩について精武館に行った。10人位の会社に何と有段者が2人、習い始めが3人である。

初めて合気道と出合って、稽古で楽しく汗を流しているな、という印象を受けた。その帰り道に早速稽古着を買った。何事も思えば即実行である。

一技の出会いについて一

体格、考え方によって技に対する考え方も、皆様それぞれあると思います。今、手と手、体と体、出合ったところを大切にしたい稽古をしたいと思っています。間合いをとって相対したときに、すでに何かがあり、このとき相手を引きつけて一体になる、ということです。

この出会いの掴み方を遠藤先生から教わりましたが、いまでは先生の技を全部盗みたいという気持ちでいます。そのためには自分自身を鍛え、見る目を養おうと思っています。

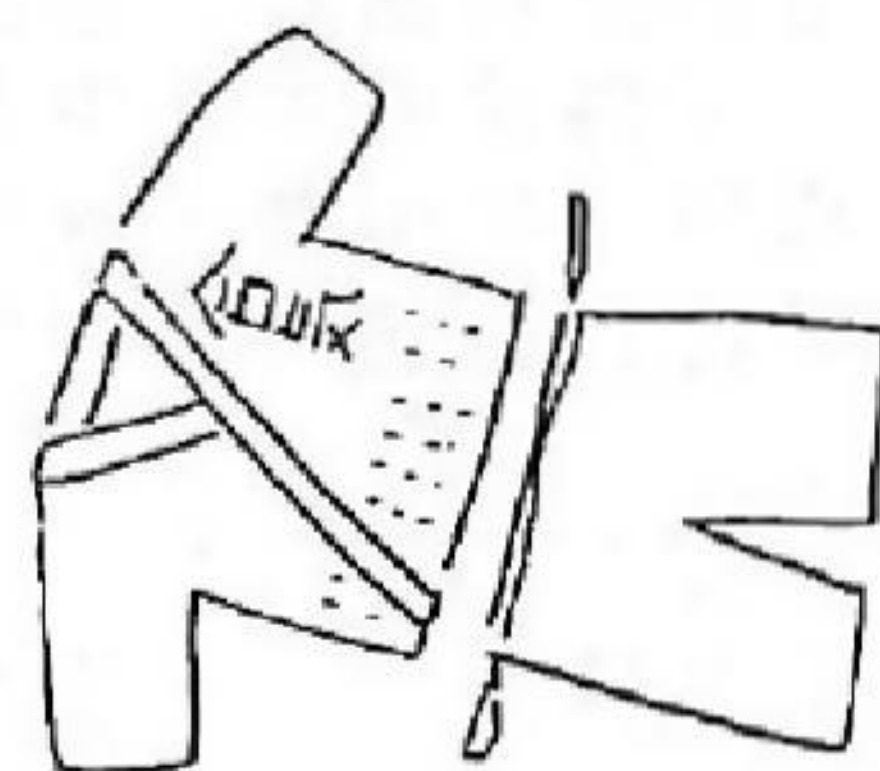
もう一つ、技の稽古ばかりするよりも受けの型を大切にする方が上達の早道だと考えています。

一合気道仲間との出会い一

たくさんの先生方、先輩と出合って教わりました。現在は中尾さん、佐治さん、和田さんたち皆様にお世話になっています。

合気道をして良かったことは気持の自信、人前で上がらなくなったことです。そして稽古で汗を流して、仲間同士で飲む酒のうまさ格別です。これからも合気仲間との出会いを大切にしたいものです。

素晴らしい合気道と出合ったことだし、皆様、楽しい愛気道を稽古しましょう！



事務局から見た神戸支部

村上強／四段

合気道を始めて23年になりますが、今振り返ってみて全く光陰矢の如しで、自分も知らぬ間にこんなに長い間稽古を続けてきたのか、というのが実感です。

しかし長い年月の間には山あり谷ありで行き詰り挫折感に襲われた事もありますが、とにかく元気で合気道に精進してこられたことは、精武館に入会できて、横田師範、濱崎師範及び多くの人々に接し得たこと、すなわち出会いがあったからだと思います。もしこれがなかったら自分と合気道のつながりは無かったかも知れません。

長い年月の間には色々な人々の往来がありました。若林さん(お父さんは元阪神タイガースの監督)、山田さん(現兵庫県警本部刑務部長)及び他の多くの方々に一時期石井町の道場で御指導を仰いだことがあります。その頃の色々な場面が走馬灯のように浮んできます。

昭和47年の2月だったと思いますが、山田さんの指導で稽古をしている時、相撲の四股を30回踏んだ事があります。自分の合気道の技も、色々と過去の蓄積により育まれ昇華され現在があると思いますが、稽古前の準備運動の時に無意識に四股を踏んでいる事があります。

元女優で現在芦屋小雁の奥さんになっている斉藤とも子さんも、中学生の頃に精武館道場で短期間稽古したことがありました。お父さんと一緒に来て入会、稽古の期間は短かったけれど上京後もお父さんとは文通しておりました。

子供クラス(少年部)は昭和51年3月27日に発足し、今は西脇道場責任者である藤本さんや他の他の先輩方に指導を受けてきましたが、専任で教えることは難しく一時廃止の方向に進んでいました。この時現在の責任者である中尾さんの協力を得ることが出来て、その熱意ある、しかもユニークな指導により子供達も生き生きと稽古しております。横田先生の御了解に依る子供クラスへの段級審査の適用も励みになっていると思います。

神戸支部の特色はあくまでもアマチュアリズムに徹することであり、来るものは誰

も拒まず、という広い心にあると思います。山端支部長の合気道に対する御理解と御協力に感謝しつつ、さらに一層の向上を目指し稽古に励みたいと思います。

神戸支部・第二道場

中尾眞吾／四段

思い返せば、山下君と自宅の6畳の間で稽古を始めて4、5年は経つのだろうか。「大先生は合気道は半畳で出来るものなのだ」と言われたとお聞きし、半信半疑で狭い場所で始めたのだった。

正寿君が来、ウェンが来、何人かの人達との稽古が慣例となってきた。そのうちにふすまが破れ、壁が落ち、畳が凹み、床板が割れてしまった・・・。

「こりゃもう道場を作らなしゃないな。車1台買うたつもりで張り込もう！」

1階の廊下、6畳の2間、それに押入を壊し、23畳の大道場「神戸支部・第二道場」の誕生だ。

和田君が月曜日の7時から、打越さんが水曜日の6時から、私めは水曜日の昼の12時からと土曜日の2時、それに相手がいれば朝、昼なら何時でも。そんな時間帯で現在に至っている。

もうじき朝稽古も週に1、2度やりますヨ一。(注：火曜日朝7時からの朝稽古はすでに始っています)

これはもう趣味とは言われへんな、ちょっと遊び過ぎやな、と思うものの、これもあれも、こんな楽しいものを残して下さった「大先生」が悪いのだ。春風飈蕩「山口先生」も原因だ。もちろんあの「遠藤先生」のせいなのだ。そして横田先生はじめ精武館の皆々様方にはほとんどの責任を取って戴く。と、何もかも他人を悪者にして一人悦に入っている。

いつの日か60畳の道場—遠藤先生の言われるほどよい広さの道場—を作り、先生を神戸にお迎えできるのを心待ちにしている昨今である。



合気道との出会い

小久保宏／三段

早実野球部の球友、荒川博氏（当時合気道四段）に合気道とはどのような武道かときいたところ、私の左手を取り、

「空いている右手で私を打ちなさい」と言われ打とうとしたが、四教で押えられ身動きが出来なかった。更にもう一人の友人と話を始め私に背を向けてしまったので、今なら手を取られていても打てるなと考えた途端、四教を効かされて身動きならず。

面と向ってならいざ知らず、ただ手を取っているだけで相手の気持を汲み取れる。合気道とは素晴らしい武道だと感激し、本部道場に入門する。

気が付いたら二十年、合気道と離れずにいたのも師範、先輩、後輩など良き道友に恵まれた為と感謝しています。

開祖の説かれた愛の武道となるように、道は色々ありますが、体調に合った合気道を求めて、更に精進稽古に励みたいと思います。宜しくお付き合いの程、お願い申し上げます。

私と合気道

松平秀利／三段

私が合気道を始めてかれこれ12年余りの時を経ようとしています。

合気道に対する最初のイメージは「神秘的な古典武道」でした。過ぎ去りし柔術の様なものだろうと思って、神戸支部道場の門をくぐった事を昨日のように思い出します。

入門させて頂いて、最初に習った技が「四方投げ」でした。最初に感じたことは「なんて合理的なんだろう」ということでした。

どことなく古臭く、やたら形式ばった技というイメージが音をたてて崩れていき、少しずつのめり込んで、今に至りました。

12年という月日が経てば、技もそれなりに身につくものですが、ここ数年、技よりも肉（余分な）がたっぷりと身に付き、「これはまずい」と思い直し、仕事を終え

て帰宅した際、わずかですが腕立て伏せなどを行なっております。

合気道を始めて感嘆したのは、道場の方々の構成でした。何と社会人の多いことか。私の描く社会人、即ち「仕事、酒、マージャン、休日はゴロ寝」というイメージとは全く異なり、別の生活の在り方を皆様に教えていただき、「私も皆様の様になりたい」と思い続け、今日まで合気道をしてこれたことは、本当に皆様の無言のご指導の賜物であると思っております。

また、合気道のメンバー云々の話の続きの様になりますが、遠藤師範のお話の中で「合気道に於いては出会いの瞬間を大切にしてください」とありましたが、本当に多くの人々と出会えたのも、まさに合気道の持つ素晴らしさの一つであると思います。

そしてその多くの出会いの中で、生涯の伴侶を得、さらに二世を得て、私生活も身体の内付同様に充実しております。

いま再び原点に返って、これからの長い道のりを、皆様と共に歩んで行きたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。



ロマンをもって・・・

中田越子／三段

私が初めて練習した合気道の技は、座り技正面打ち一教だったように思います。いきなりどちらかの頬が畳に打ちつけられたのがいやに新鮮で、しかも朝7時からの稽古というのが一日の始りの充実感を感じさせてくれました。

そうやって2年間通った大阪武育センターも、今は天王寺公園の一部になってしまったと聞き淋しく思っています。

20才で初めて精武館を訪れた時、和気藹々とした雰囲気には驚きましたが、すぐ親しみを覚えました。来た頃は随分生意気だったらしく恥かしい思いです。

合気道ばかりしていた頃の自分、「同じしんどくても、こんな痛い思いをするんやったらテニスやスキーの方がよっぽど楽しいワ!」とすっかり足を遠のかせていた数年、そして高い敷居をまたいで再び練習に来た時、また暖かく迎えてくれた変らないメンバーの笑顔・・・。

あれもしたい、これもしたいと欲張りな私。神戸に来て、いろいろなことをしましたが、最後にはやっぱり合気道に戻ってきたようです。

私が合気道を始めたのは「力の無い者でも、相手の力を利用して相手を倒すことが出来る」というところに、合気道のロマンを感じたからだと思います。強いものが強いことがあたりまえでない、ということに魅力を感じたのかもしれませんが。なかなか理想どろりにいかないのが現実の稽古ですが、昔そんなことを考えていた自分を忘れないようにしたいと思っています。

合気道と私

中睦治／二段

元来低血圧で身体が弱かったのが、20才代、30才代前半よりも今の方が健康でいられるのは、偏に合気道のお蔭です。

初めに村上さんが合気道に誘ってくださった時、柔道、剣道、その他の武道から成

立った武道と聞き、武道の新興宗教くらいに思い気が進みませんでした。その後、ストレスから急性肝炎と十二指腸潰瘍を同時に患い2カ月の療養で快方に向ったが、健康の必要性を痛感し精武館に見学に行きました。

初めて見る合気道は、子供の頃より憧れていた「柔よく剛を制す」の武道である事が分かり、直ぐ入門させて頂きました。

長年合気道をしていますが、その間もよく休み、また続ける、といった状態で今日まで来ています。身体の方は、毎年の健康診断でも大丈夫となりました。

仕事柄、外国によく出掛けますが、2・3ヶ月の海外滞在でも毎日の合気体操と呼吸法でたいした病気もなく過してきました。外国ではゴルフよりも合気道をしている方が日本人として尊敬されます。また日本の文化、武道に詳しくれば非常に興味を持たれ話も弾みます。

私のよく行った中南米、アフリカでは日本の武道に大変関心があり、一番よく歩いた南米では、ベネズエラのカラカスでイタリアで学んだ人が合気道を教えていました。畳はなく、板の間に絨毯を敷いて稽古をしていました。中南米人の日本の武道の神秘性に対する憧れは凄いものです。

コロンビアの首都・ボゴタの書店で、スペイン語で書かれた合気道の本を買いましたが、内容は大分、空手に近いものでした。今、よく行っているエジプトのカイロにも合気道の道場があると聞いています。

仕事柄、昼間のストレスがきつい日など、就寝後1時間くらい後に、突然目が醒め、氣持が苛立って眠れない夜がたまにあるのですが、その時は、円運動を主体にした四方投げの技を静かに心に描いていると、スーッと何時のまにか眠れます。

もし、合気道に出会っていなければ、心身の面で今ごろはどうなっていたか分からず、また同年齢の中では身体の面で十分に自信が持てることから、合気道との出会いを人生最大の幸せの一つと考えています。

できれば合気道がますます盛んになり、世の多くの人々が更に健康に暮せるようになることを、祈る次第です。

どうもありがとうございました

フィリップ

It was in March 1987 when we phoned Yokota sensei about observing a practice. We arrived late at Nishidai for a Sunday practice and were soon eager to buy Dogis for the next week's practice.

Kobe dojo welcomed us warmly and we learned much from the variety of styles that everyone brings to the dojo case by case. Some people are harder, others soft, but everyone can enjoy "playing" Aikido.

We will continue our practice in Canada and never forget the spirit of respect we have learned inside and outside the dojo.

Two years have passed quickly and we think everyone for helping us to learn a little more about Ki.

どうもありがとうございました。

P.S. Less drinking and more Aikido!

きをつけて

ミリヤム

My name is Miryam Huchet. I am from Canada. When I came to Japan, in Sept. 1986, My friends talked about Aikido and said I should try it. But I thought it was too dangerous for me.

I entered the dojo to watch Aikido. I was very surprised. I saw two big bears rolling around on the floor! They were Nakao-sensei and Hamasaki-sensei. It looked like fun! So I decided to try and Nakao-sensei became my partner. I really enjoyed the practice.

Afterwards, I started "to play" Aikido and I have learned many things. I'm sorry I didn't practice very much, but now I know the importance of Aikido

and I hope to begin Aikido again when I return to Canada.

Thank you everyone at Seibukan-dojo for teaching me Aikido, for your good sense of humor, and for your friendship and kindness. Take care.

きをつけて。

合キチ達

中尾美枝子

私の息子は自他共に認める「合キチ」である。それも生やさしいものではない。今のところ彼の必死(?)の自制によってかろうじて仕事と合気道のバランスが保たれているように思えるが、それも何時、どんな事態が起きるか判ったものではない。

息子1人の間はまだよかったのだが、近頃はその嫁さんまでがすっかり同化して、やれ初段だ、黒帯だと喜んでいる。大体、彼女が嫁に来た時、私はこれでやっとあの重い道着の洗濯から開放されたと喜んだものの、今では二人分洗わされているのだから世話はない。勿論休みの日は私など相手にしてもらえないし……。私としては考えざるをえない。

そこで彼等の若い合気集団の中へ私も時々入れてもらう事にして、一緒に飲んだり喋ったり、判りもしないビデオを見たりしてそれなりに楽しませてもらっている。これも皆さんととてもいい人達ばかりで、合気精神で合せて下さっているのだと常に感謝している。

何によらず、趣味を同じくするものはやって愉しく、語って愉しく、呑んで又愉しいとは思いますが、合気道はまた特別なのかなーと感心している。

ともかくいい仲間に恵まれて好きな合気道をたのしむのは大いに結構な事だとは思いますが唯、自らも人をも傷付けることなく十分気を付けて欲しいと願っている。



横田・濱崎両先生昇段祝賀会

曾川治／3級

去る2月19日、日曜日、中央区花隈町の料亭「上伊」にて、正午より約2時間の予定で、横田先生七段、濱崎先生六段昇段の祝賀会が催されました。

2月初旬から天候不順で雨の日が多く、祝賀会の日も雨が降るか懸念していましたが、幸いにも当日は、祝賀会に相応して快晴に恵まれた。気の武道の人々の集りだから、天に気が通ったのかも。

精武館で横田、濱崎両先生から指導を受けている人達、約30名が料亭の素晴らしい大広間に集り、中尾先生の音頭で進行した。

初めに横田先生の挨拶があり、その席で四段、五段、六段とその都度異なる段の重さの良い話があり、私は先生の礼節、自覚、責任を話の中から感じながら拝聴いたしました。横田先生の挨拶の後、精武館の恒例になっている3分間スピーチで一人一人が順に祝詞を述べた後、最後に濱崎先生の挨拶で締めくくった。

運ばれてくる料理に舌鼓を打ちながらの談笑が絶えず、和気藹々のうちに昇段祝賀会が開きとなった事を報告いたします。



子供達と私

中尾眞吾 / 四段

子供のクラスは土曜日の夕方である。先ず剣道場に畳を敷くことから始まる。小さい子供たちが重い畳を40枚も敷いていくのは大変な事である。大垣君や楠本さん達が私の着く前に畳を敷き詰めていたのには頭が下がったものだ。

最近うれしいことがあった。道場に来てもう6年が過ぎようとしている彼。だが今だに前受身が出来ない。彼が出来るまで「私の合気道もハンパ」との思い込みもあり、道場に行く度に気になって仕方がなかった。一教が出来なくてもよい。入身投げも天地投げもどっちでもよい。ころばる事が楽しく、この1時間が子供たちにとって愉快に過せる時間であればええ事なんだ、しかし、せめて前受身くらいはねーエ・・・。

出来ました、出来ました！ やっと、とうとう、遂に、彼の前受身。よく続けてくれたと感謝している。

そしてあのゴン太坊主だ。大きな子供たちに意地悪されて泣きに泣いたり30分。その為に他の子供達も全く稽古にならず見ているだけの30分。なだめてもすかしても泣いて泣いての強情さ。なんとまあこの自由奔放というのか、自分の感情を正直に表せる彼を妙に嬉しく思ったものだ。彼ももう6年生。チビ達の人気を一身に集めトンボを切っている。

お母さんに道場に行くと言って公園で遊んでいる子。弟達に合気道を押つけて見学だけのおネエちゃん。小犬を道場に連れてきて、犬をあやす合間に稽古の子。何しに来たんやろ？先生に投げられるだけで後はダベリングの少女達。教えるのは好きで自分でするのは嫌いな子。サラの道着を誇らしげに着、技も急に上手になった子や、始めて日は浅いのに器用に何でもこなす子。

まさに大人の世界である。子供達と一緒にいると、合気道には子供の合気道や大人の合気道はないなとおもう。先生方に教わるのも合気道、仲間との稽古も合気道、そしてワンパク共との稽古も捨て難いものがある。私にとって子供達との精武館は案外一番満たされた時間なのかもしれない。

今も昔も子供達に大事なものは「読み」「書き」「珠算」「合気道」である、と私は思っている。



合気道について

住岡美樹／6級／中2

私は小学校1年のときから始めたのもう7年になります。去年試験を受けて6級になりました。昔はけっこうまじめに行ってたけど、このごろさぼってばかりいます・・・。

入ったときは先生もちがっていたし人数ももっと少なかったし・・・。

私にとって合気道は、はつきり言って少しストレス解消っぽいところがあります。夏休みとか一日中ボーッとしてて1週間に1回合気道とかあったら動いて気持ちいいときとかあるから・・・、少しストレス解消法。

合気道をはじめた動機は西田さんに誘われてやりました。やってもぜったい続かないと思っていたけど、けっこう続いているのにはびっくりしています。

道着を一番はじめに買ってもらったとき、すごく合気道に行くのが楽しみでした。ずーっと続ける約束で買ってもらったから、うまくなろうと思ってけっこうまじめにやってきました。だけど今は月に1回行くか行かないか、行ってもしゃべってまじめにやらないし・・・。

昔にくらべるとすっかりなまけぐせがついてしまったなあ、と思う今日このごろです。

合気道について

片山瑞穂／7級／中1

四年生の初めごろに私は合気道を始めました。合気道に入ったきっかけは仲のいい友達が合気道をしていたので見学に言ったことです。剣道や空手なんかはよく聞きますが合気道なんかは聞いたことがありませんでしたので、好奇心いっぱいで行ったのはよかったのですが、私は入口で立ちどまってしまいました。

「ドタン、バタン」

大人の人が二人で前や後にころがっていました。私は帰ろうとしましたが友達に連れられて入って行きました。中にはいるとこわさもどこかへ消えました。

先生らしい人が

「あんた達もやってみ」

といわれましたが、「こんなむづかしいことできるわけない!」と思いました。でもことわるとこわいので、友達に教えてもらいながらやりました。やっていると楽しく、友達も入っていることだしつられて入りました。今では道着も着ていますけど・・・。

日に日に友達がふえてしゃべっているばかりです。まじめにする時はめったにありません。合気道の後に塾もあります。いそがしいけれど合気道をやめようとは1回も思ったことがありません。これからもっと友達が増えたらいいな、と思っています。

合気道について

李珠玲／8級／小6

わたしが合気道をはじめたきっかけは、姉が7年前からならっているからでした。

最初はいやいやいかされていた。けれどこのごろはともだちもたくさんできて、楽しくやっています。

冬はとてもさむく夏はとても暑いですが、私にとっては体力作りと友達作りにとてもよいことです。ときどきいやになることは今でもよくあって、たまに休んでしまうこともあります。小さな子や女の子のあたまをたたいたりする男の子がいるので、そういうことをやめてくれたら、もっと合気道がたのしくなると 생각합니다。

そして私は試験を受けて8級までいけました。今度また、しけんを受ける時まで一生けんめいれんしゅうして、よい成績をとりたいと思う。これからも合気道をつづけていきたいと思っています。

これからがんばるぞ!

片山摩耶／8級／小6

「こんにちは」

の一言から、合気道が始ります。始めのうちは少しはづかしくて道着を着るのはいやでしたが、寒くなるにつれて道着を着ようと思いはじめました。今ではもうずっと道着を着て、合気道の練習にはげんでいます。

合気道を始めた理由は「強くなりたい」ということからです。でも合気道は強くなるということより、体をやらかくするため、といった方がいいと思います。

みんなであのしくする合気道。でも、合気道の中でも、もっとも楽しみのことはなんといってもクリスマスのケーキです。

合気道をやっていても体はやらかくなりません。でも、いっしょうけんめい元気に楽しく、あせをながしてする合気道は、よい運動になると思います。これからも、元気にいっしょうけんめいがんばりたいと思います。

合気道

李耿栄／8級／小4

ぼくは合気道を始めて4年になります。いやなときもあったけど今までやってきました。

最初のうちは前受身と後受身ができなかったけど4年もやっているうちにうまくなってきました。と中でめんどくさくなってやめたいなと思ったこともあったけど、おかあさんが、「だめ」といったので、やりつづけることにしました。後受身や前受身がうまいと、先生に言われるようになってきました。

12月に8級の賞状をもらったので、もっとがんばって合気道をやって8級からどんどん級を上げていきたいと思っています。やめたいときがあっても、いっしょうけんめいがんばって合気道を続けていって体力作りや友だちづくりにがんばっていききたいと思っています。

合気道

鄭成浩／8級／小6

ぼくにとっていま合気道はなくてはならないものになっています。たとえば、体育のせいせきが2から1になってしまう。ほかにも45Kgをこしてよけいに太ってしまう。

でもそんなものだけじゃないんです。もし合気道に入らなければ、1年生のとき

のように泣き虫の弱虫だったでしょう。寒い冬に道着1まいでれん習するときもあれば、夏暑い日窓をしめっぱなしでれん習することもあります。きびしいれん習が心もからだも、ぼくのいろいろな面をきたえてくれました。

そんなことでいろいろあって、ぼくには合気道はなくてはならないものになりました。これからもずっとずっと合気道をつづけていきます。

合気道

竹内ゆう子／9級／小3

わたしは3年の4月から合気道をならいはじめました。はじめて道場に入ったときはドキドキしていました。でももう友達もできたしドキドキしているのはしけんぐらいいです。でもそのときは9級になれたからものすごくうれしかったです。今年もまたしけんがあります。そのときもがんばりたいです。

それからわたしはわざが何しゆるいぐらいあるか知りたいです。たぶん50しゆるいはこえていると思います。

さいごに合気道をならいはじめてよかったな、と思うことは、いままで知らなかったことやしせいが正しくなったことです。それから友だちもできたし力もつきました。さいしょわたしは合気道があることなんかぜんぜんしりませんでした。やっぱり合気道へ行っていてよかったな、と思いました。

合気道について

住岡亜樹／10級／小4

わたしが合気道をはじめたのは、1年生の時にはじめました。わたしは今で3年間やってきました。おねえちゃんも6年間もやっているのはすごいと思いました。

合気道をはじめた動機は、おねえちゃんがいつていたからとか、おねえちゃんにすすめられたりしたからやりはじめました。

合気道はとてものしいと思います。いろいろな人となげあったり、人よりもうまくなりたいと思ったりします。わたしもおねえちゃんみたいに7級や6級ぐらいいになりたいとおもいます。

中尾先生と村上先生のちがい

竹内亮介／10級／小2

村上先生はやさしいけど、中尾先生はこわいです。中尾先生のこわい所は急に投げたりするところです。村上先生のやさしい所はゆっくり投げしてくれる、投げさせてくれる時もあります。

中尾先生が休みだったら、おねえちゃんがよく遊びます。でも中尾先生もやさしい時もあります。時どき中尾先生が、「全員で中尾先生をたおせ」と、いってくれます。

村上先生はおこっても「これこれやめなさい」というだけです。中尾先生と村上先生のちがいがすぐにわかってしまいます。

合気道を始めて

高見馨／無級／中1

私が合気道をはじめたのは4年生の時です。最初はわけもわからないまま入りましたが、今ではやっていてよかったと思います。

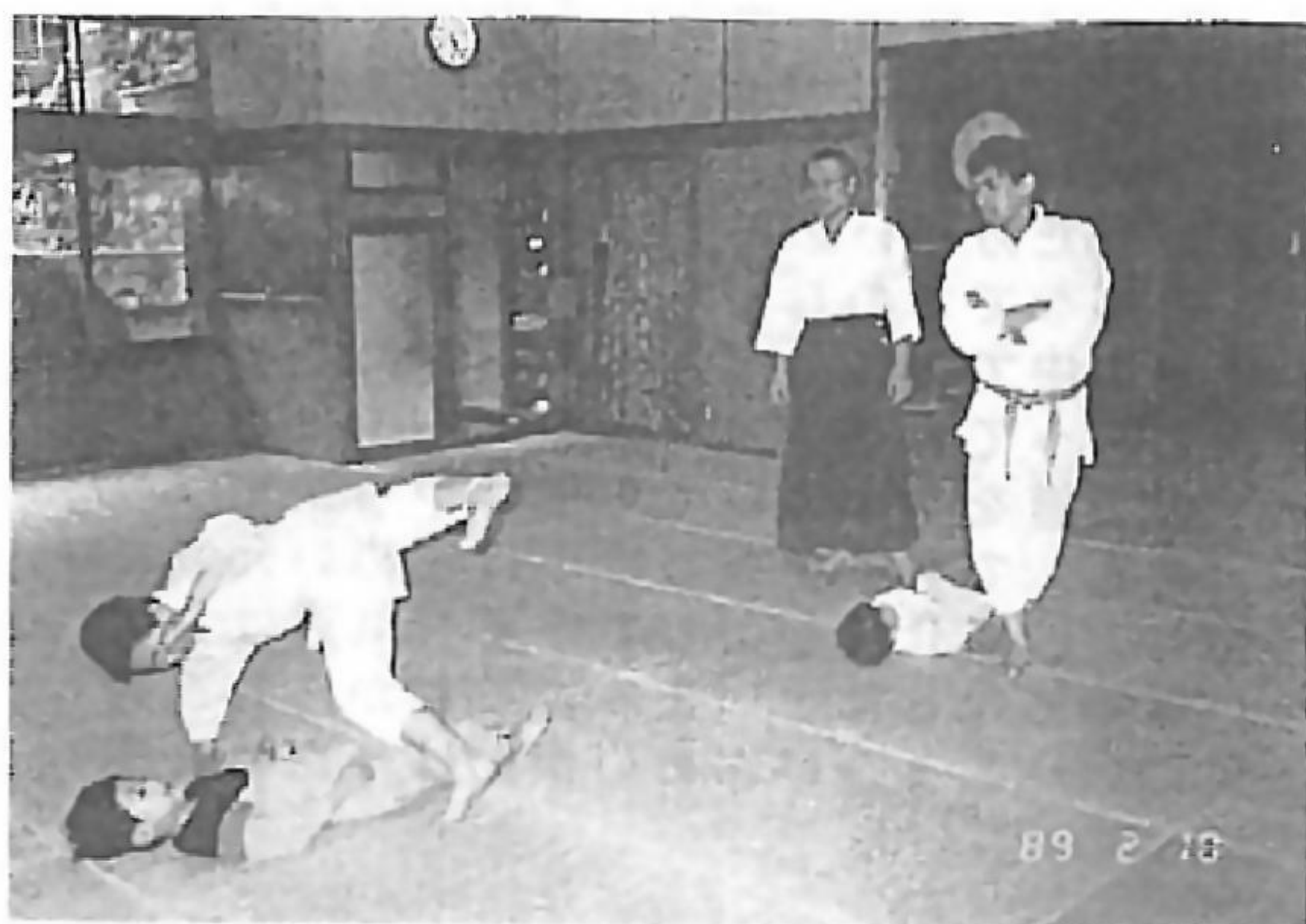
夏はじっとしていても暑いのに、動きまわって汗をかきました。冬は寒い時も素足でやっていました。

合気道を始める前は足によくしもやけができていましたが、最近はできなくなりました。よくかぜをひいて体調を悪くしていましたが、あまりかぜもひかなくなり体力もつきました。毎年ぜんそくがでてこまっていたのですが、ぜんそくもでなくなりました。

合気道もだんだんうまくなってきたと思います。はじめのうちは受身をするのに頭や肩を打って次の日に体のあちこちが痛かったけれど、今では頭や肩を打たないで受身ができるようになりました。

塾と重なって合気道へ行けなかった時もありましたが、なるべく休まないようにしたいと思います。

本当に合気道をやっていてよかったなあ。



合気道と子供、私の考え

李華勝

私は子供たち3人全員に合気道を習わせている。この春で長女の珠貴が中3、次女の珠玲が中1、長男の耿栄が小5になる。

どの子も小1の頃から始めている。一番長い長女で約8年、一番短い長男で約4年になる。その間、子供たちが続くかとか、子供の部がひょっとしてなくなるのではとか随分心配をした。

先生方の時間を犠牲にしての熱心なご指導がなければ、このような長い年月続くはずがないとほんとうに心から感謝しております。そして子供たちもよく頑張ったと思う。持続は力なりというのが子供たちを見ていると間違いではないと思う。

子供たちには必ず武術を、それも素手で競い合うものでなければと子供が生れるずっと前から決めていた。誰それが行なっているからとか、流行だからではない。子供たちには数ある習い事の中で、武術、算盤、習字だけは何かあっても必ず習わせる、というのが私の考えである。子供たちが成人したときに、それがよかったと思ってくれるか、よくなかったと思ってくれるかは知らないが……。

子供たちには何かと理由をつけては休もうとしたがるときもあるが、安易に流れないよう頑張らせている。子供たちにはできれば合気道をこれからも一生続けて行ってほしいと思っている。

何故、武術（素手による）、算盤、習字なのかうまく説明できないが、どれも自分自身の体や頭や手を動かさなければならぬことが共通点になっている。

世の中がどんどん便利になればなるほど、ほんとうは脆いものではないかと漠然と私は思っている。例えばガソリンが、電気がある日突然なくなったとしたら頼むに足りるものは自分自身（精神的にも肉体的にも）しかないのではないかと？

友人などと子供の話をする時は必ず合気道の話をする。なぜ習わせているか、いつから習っているか、どれくらい上達しているか、どのような道場か、どのような先生方が指導されているかなどなどを話す。大抵の人は非常に感心してくれるので私の

自慢のタネである。

これもいい先生方がいて、精武館があってこそであると何時も有難く思っている。

合気道と子供達

片山喜代美

私が子供達に合気道をさせようと思ったのはやはり護身術のためです。学校でいじめがあって、もしそれに子供がまきこまれた時、「自分は合気道をしているんだ」という自信があれば、おそれることはないと思ったからです。

子供達が合気道を始めて5年目を迎えるようとしています。初めは行きしぶっていた下の子も、クリスマスのケーキをたのしみに4年間頑張りました。ケーキの楽しみはお姉ちゃんもいっしょですが。

よく父親と、

「強なったやろ。悪い人が来てもやっつけられるな」

「ううん。先生が、『あぶないと思ったらすぐにげるんや』と言ってた。なあ、お姉ちゃん」

「うん。そうやで、パパ。とにかく一番に走って逃げるんやで」

と、このような会話がよく繰返され、三人で、合気道のわからない父親に注文をつけながらドタバタやっております。

下の子は車にも酔いやすく、投げられてくるくる回るとすぐ気分が悪くなっていたのですが、今はすこし良くなったようです。上の子は先日も先生に、

「前は10回位投げたらハーハー言っていたのに、20回位投げても大丈夫やな」

と言われたと話してくれましたが、本当に続ける事が大事だと思いました。

まだまだ遊びの域を出ていない子供達ですが、先生方と楽しく、頑張っ続けてくれることを願っております。



合気道

竹内めぐみ

子供たちが合気道と出会ってから、早いもので1年が経とうとしています。

初めて道場に伺い、幼児から小学生、中学生、大人と年齢を越えての練習風景、とても印象が深く、心に残っています。

初めは渋々だった亮介も、仲間に入れて頂いている間に、ついて行けるんじゃないかと思ったのでしょうか、僕もやってみるということで、姉弟2人、いまは体の調子が悪い時以外は、友達と遊んでいる最中でも(きっぱりという訳にはいきませんが)時間に遅れないように支度して、道場に向うようになりました。

家でも、どんな技を教えてもらったか、から始り、先生のこと、中学生のお姉さんの犬が「ミルク」と云う名前、目が家の犬と似ていること、同年代の子供たちと些細なことで喧嘩になったことなど、よく話して聞かせてくれます。

自分と同じ年齢の子供達だけでなく、いろいろな年齢の人達と一緒に、練習をして教えてもらったり相手になってもらったりしている間に、学校や家庭とは一味違った良い経験をさせていただいていると思います。

子供達の身について欲しいことに、時間を守る、あいさつをしっかり、返事ははっきり、背すじをしゃんと、きびきびした動作、などがありますが恥かしいことに親である私が身についているとは言えません。子供達が道場に通い、先生方を見習い、お姉さん、お兄さんを見習ううちに何か身につけてくれたら、などと少しばかり都合のよい勝手なことを期待しています。

合気道を続けることにより心も、技も、身体も成長し、心身共に逞しい人に・・・と私は非常に欲張っています。

親子で合気道

佐治保津美

危ない、怖い、暗い、というのが私の合気道に対する印象でした。

しかし3才の息子が昨年合気道に夢中とまでも言わなくても好きで、小さな道着を持って夏の暑い時、冬の寒い日、雨の中、頑張って道場に通っています。夏には「今日は眞吾先生、クーラーつけてくれなかった。暑かったわ」

と言ひ、冬には

「寒いっ」

と真っ赤なほっぺをして帰ってきます。

そんな息子が・・・、昨年の暮れに昇級試験を受け、訳がわからずに10級をもらいました。それからというもの練習にいくたびに

「9級の試験いつあるんやろう」

と言ひながら、大きなお兄さん、お姉さんと一緒に元気に練習しています。(はしゃいでいます。)

「今日天地投げの練習したよ」

と、息をはずませ帰ってくる息子に私は可愛さとたくましさを感じます。近所の友達には、「前受身はこうしてね」と言って、でんぐり返りをして先生のつもりのようです。

「ぼく合気道好きやねん!」と言ってくれる息子にお父さんニッコリ(お母さんガックリ)

冗談で始めたような子供の合気道ですが今は、「頑張れ、けがをしないでね!」と応援しています。

追伸: お父さんも息子に負けないようにね!



昭和51年6月10日発行の合気道新聞（合気会本部道場発行）の「われらの道場」に神戸支部が紹介されています。13年前の神戸支部の様子を横田先生の名文でどうぞ・・・。

合気道新聞

昭和51年6月10日

(4)

明るい気風を維持

神戸支部 精武館道場



われらの道場

初秋ともなれば、落日を急ぐ。そんなある日の夕方の神戸南、関電本山駅から南に下る街灯もさみしい急坂を一途に家路に急ぐ。と、背後に急迫する人の気配に、スリとしたセーラー姿が一瞬さっと尻んだ。

やわら前を見ると、数メートル先で若い男が地面に西つんばいでうつろ。近づき「これですか」と眼鏡を指し上げて渡すと、「どうもすみませんでした」と胸え入るような表情で頭を下げて「さう」と胸に抱えた。地方版の隅に出たこんな記事を見つづけて板女は、恥かしげに、「演武を覚えて呼吸投げばかり練習していたのか

自然に出たみたい。あとで思い出してた怖くて……」

当時たまたま来神された道主（但し当時若先生）から、その筋の良さを褒められた。娘も、東京近郊に嫁いで、すでに人の親とか。

昭和三十四年、当時大商証券に勤めた米持氏（現新日本証券常務）に、道主を通じて紹介され、ビルの屋上にボロ屋を敷いて精武館をはじめ以来、三の宮生田で関電道場時代を数年、たまたま米持氏と一っ張りの関係にある山崎一夫氏（現支部長、合気会理事、神戸市元町連合会長）に支部長になっていただき、ついには現精武館道場まで建てていただく

といった破格の好意に支えられ、且つ合気会本部の暖かい理解と指導のもと、神戸支部も

すでに十数年を数える。

大楠公にゆかりの阪川より山の手線へと北上すると、多くの有名な神社を押し包むようなたたずまいを見せる閑静な住宅街が、東西にのびる。石井町五丁目のバス停を降りて横へ折れると、すぐに爪先きのほり。すがりつきたくなるような急傾斜の山ろくに面して建つ精武館道場を探し求めて、多形な人々が去来した。

合気道以外にも、目立たぬが人の生活に張り目と目標を与えてくれるような、いわば地の塩ともなるような活動や団体を数多く面倒を見、且つ統率されながら、自身も出ることを避ける支部長のお人柄を承けて、ひたすらに自修の場としてのアマチニアリズムを貫き、よくは分らぬが合気道という大道の一端に触れ、いそしむ

という連帯感に共鳴出来る人を、一人でも増やすことを念願して今日に至る。

おかげで、本社の香も快ちよい道場を気軽に訪れる人々は、談路、相生、大阪などにも及ぶ。「死んだ時は、縁かたひらの代わり、この精武館をうけてもらうんだ」と底の草むしりにいそしむ老連帯手さん。熱心に託児所よろしく子供クラスをはじめ若い先

生。とくに最近、仕事や家庭の事情で中断していたが、また始めたいと、わが家に帰ったみたいに眼をかがわけて再訪する人が相つく。

平均精古者数約三十名、十数名の有段者が代わる代わる師範代として、和気あいあいに汗をかくことに時間を忘れる。

最近本部より、道場師範の来神を願う、同師範の心身ともに背筋を伸ばした端切れのよい指導に接し、支部内に風風の如き刺激を感じた。

とまれ神戸支部は、支部長の無償の好意の上にアマチニアリズムを築き上げた、並はずれたぜいたくに恵まれたことを一途に感謝し、今後とも、明るい気風の維持と出会いの場としての使命を守りぬいていきたい（横田金典）。



アンケート/神戸支部 3 人に聞きました

いつも一緒に稽古している仲間に、改めてアンケートを採ってみました。どんな考えで稽古に励んでいるのか、案外新発見があるかも知れません。都合で全員の方からアンケートが取れていません。載っていない方、ゴメンなさい。第2号には全員の方が載るようご協力下さい。また、こんな事を皆から聞いてみたい、というようなことがあればご連絡下さい。

アンケートの内容：①段級 ②経験年数 ③住所 ④電話番号（神戸市の方の市外局番は省（89年1月現在） 略しています） ⑤合気道を始めた動機 ⑥合気道を一言で言えば ⑦好きな技と理由 ⑧良かったこと、役だったこと、何か変わったこと ⑨知りたいこと ⑩仲間に言いたいこと ⑪有段者から初心者の方へのアドバイス

ヨコタ カネノリ

横田金典 (53) : ①七段②35年③〒654神戸市須磨区白川台7-9-29④791-8465

ハマサキマサシ

濱崎正司 (51) : ①六段②30年③〒673明石市太寺大野町2701-10④911-1227⑤柔道から見て合気道の合理性に魅力を感じた⑥現在では生活の一部⑦四方投げ—多角的な変化をする時の基本になる技である。入身—まず入身ができることが合気道の第一歩である⑧運動をすることによって若い気持ちを持つことが出来たこと。それにより仕事に対する情熱を持ち続けることができた⑩若い人がふえること。会員の団結が一段と強くなり大変楽しみにしている⑪強くなることより続けることが大切です

イノウエトメシ・ロウ

井上留次郎 (75) : ①四段②31年③〒664伊丹市美鈴町3-126-19④0727-83-7985⑤健康のため⑥健康によい⑦入身投げ、小手返し、四方投げ⑧健康になった。合気道を休むと体調が悪くなる。姿勢がよくなった⑩とにかく続けなさい

ウチコシアキオ

打越明夫 (41) : ①四段②24年③〒657神戸市灘区大石東町6-3-2-504④881-7328⑤会社の先輩（宇佐美さん）に連れられて⑥楽しくなければ合気道じゃない、楽しみ⑦一教と呼吸投げ⑧人前で上がらなくなった⑩いつまでも楽しく稽古をしましょう⑪とにかく続けること

ナカオ シンゴ

中尾眞吾 (41) : ①四段②18年③〒650神戸市中央区北長狭通8-1-1④341-6395⑤運動が好きだったから⑥合気道！⑦一教、すればするほど難しいから⑧ええ事ばかり。役だったことは思いつかないが、年がいくに従ってぼちぼちでもマシな人間になっていけそ—⑩ただただええ合気道をやっていきましょう⑪楽しくやりましょう

カワハタマサミ

川端政美 (35) : ①四段②15年③〒655神戸市垂水区山手6-3-2-205④752-6613⑤健康のため⑥人生の糧⑦四方投げ—自由かつ強烈であるから⑧健康が維持できる⑩基本技を正確に憶えること

コケホ・ヒロシ

小久保宏 (57) : ①三段②20年③〒673明石市東朝霧丘20-14④912-8939⑤武道的な人体の不思議さ、奥の深さ⑥まさに武、戈を止める⑦呼吸投げ—力技でない気合い（？）の技なる故に奥が深い⑧広く社会人とお付き合い願えること⑨神戸支部の歴史⑩自分がどの位強く（上手く）なったか中々わからないものです。稽古で相手の力量を見分ける様になることも合気道です。どうぞ無理のないようお手柔ら

かに⑩初段までは出来るだけ毎日稽古する。道場以外で稽古の方法を見つける

ワタ マサシ
和田正志
(38)

: ①三段②18年③〒652神戸市兵庫区三川口町3-6-13-204④575-7624⑤新聞で和泉雅子の稽古の記事を見て⑥励まし、夢、自信⑦正面打ち一教、この技から無限の技が産れてくると思う⑧自信がつき、健康になった⑨創立期の神戸支部のこと⑩三日、三月、三年夢中でやってみては。思いきり攻めて思いきり受けて気持のいい合気をやりましょう

ナカタ エツコ
中田越子
(31)

: ①三段②13年③〒655神戸市垂水区瑞ヶ丘7-11-210④706-4576⑤漫画「ハリスの旋風」を見て⑥昔は「ロマン」、今は「ライフ」⑦呼吸投げ⑧乗物酔いをしなくなったこと、肩凝りが治るように思う⑩交代制の練習をしませんか⑪相手に合わせること（一生懸命ついていくこと）かなあ何回も練習すること

モリ マスミ
森 益美
(37)

: ①二段②物理的15年経過③〒654-01神戸市須磨区竜が台7-31④792-7058⑤妹に連れられて⑥平静心、なんちゃって。美と健康の泉⑦腰投げ、天地投げ⑧元氣になった。人に対して寛容になって神経質でなくなった（自分に対して）⑩いつまでもAFTER合気道を楽しくやっていけるように⑪理屈よりも先ず体を動かすこと。人との比較でなく自分自身の進歩を

ヤマサキアキヒコ
山崎昭彦
(28)

: ①二段②13年③〒673-02神戸市西区北山台2-1-3④994-1325⑤いところが習っていた⑥忍耐⑦呼吸技—自分が強くなったように思うから⑧知らない人と話が出来る。健康、体力がついた⑩受身を人の何倍も練習してほしい。有段者になるまでは稽古を続けてほしい

コサカ キミコ
小坂君子
(31)

: ①二段②9年③〒664伊丹市御願塚2-4-32④0727-72-8336⑤友人に教えられて⑥しばらくしないとムズムズしてくる（一種の病気かな？）⑦二教の固め技—肩凝りが治る⑧日曜日にすることが出来た（それまでは終日ボケーツとしていた）。腕と首が太くなった（標準サイズの服が入らない—！）。お酒が強くなった（合気道も強くなったような錯覚におちいる）⑩末長くよろしく

タマモリヒトシ・オ
玉森秀男
(51)

: ①二段②8年③〒651-11神戸市北区鈴蘭台南町3-10-15④591-5917⑤昭和33年道主の「合気道」の本を読み、素晴らしい武術だ、いつかは習いたいと思っていましたが、昭和47年会社の末長さんに技を見せていただき、一目惚れし社内でクラブ設立のメンバーに加えて頂き手ほどきを受けました。その後昭和49年1月から息子と共にこの道場でお世話になりました⑥武道の目的を知る場⑦入身投げ—すれ違いざま掛ける刹那の技は合気道を代表するにふさわしい技だと思います。非常に難しくまだ会得できませんがいつかは必ずものにしたいと思っています⑧平生が机の前に座っている仕事のため体力がどんどん落ちていきます。しかし臍下丹田に気をつけているため長時間の歩行や立ち仕事にも耐えられることはうれしい⑩練習のときいつも無批判に受身を取るのではなく効いていない技に対しては二人で考えることがお互いの進歩となるほか合気道も発展するのではないかと思います⑪何のために合気道をするのか、その目標をはっきりもち、目標に合った練習をすることが目標達成の早道だと思います。目標は大きな目標とその前段階の小さな目標をたてることが良いとおもいます

ハ・ンノヒデ・ユキ
阪野英之
(29)

: ①初段②4年③〒674明石市大久保町谷八木1191-50労働省大久保宿舍306号④934-1985⑤体を鍛えられるうちに何かやりたかった。武道であって人を傷つけることのないものといえば合気道ではないかと思った。⑥一生続けていけるもの。⑦四方投げ—技の中で一番理にかなっている（実戦的？）ような気がする。そのかわり掛けられる時は腕を折られるようで大嫌い⑧体が引締まってきた。

体力がついた⑨棒(杖)を使った技を教えてほしい⑩これからもずっとやりませう⑪段を取ったばかりなのでアドバイスなんかとてもとても・・・

ナカオ アキユ

中尾明子
(37)

: ①初段②3.5年③〒650神戸市中央区北長狭通8-1-1④341-6395⑤ビデオで見るより、撮るより、練習する方が楽しそうでおもしろそうだったから(同じアホならやらなきゃ損々)⑥生活⑦一教と転換-初めの第一歩みたいでとても大事な技と思うので⑦体の芯から元気になったことが良かったです⑩仲良くやりたいと思います⑪誰にでも遠慮しないで習いましょう。有段者の方も初心者の方を大事にして下さい

ハマモトケンイチ

濱本憲一
(30)

: ①1級②4年③〒657神戸市灘区森後町2-1-27④851-6239⑤何か(体を動かすことを)はじめないと、というあせりとマイペースで(好きな時に)やれそうな自由な雰囲気があったので⑥趣味を越えた何か⑦一教と呼吸投げ-基本だと思ひ、又いくらやっても簡単には分からないところ⑧ストレスの解消、体が少しは強くなった。良い先輩、仲間、道友が出来たこと⑩初心者より有段者への要望-WEEKDAY, WEEKENDにも稽古に来て下さい

ナカ アツノリ

中 篤徳
(19)

: ①2級②1年③〒653神戸市長田区長田天神町1-19-17④691-3006⑤父に勧められて⑥健康法⑦入身投げと一教-自分にとってその二つが一番難しいように感じるため⑧合気道を始める前にくらべてずいぶんと体が丈夫になった⑨神戸支部創立当時の話

ソカワ オサム

曾川 治
(59)

: ①3級②3年③〒651神戸市中央区熊内町8-4-6④231-3146⑤健康のため⑥技の極意(気)

スヤマ ナオタカ

竇山直孝
(20)

: ①5級②3月③〒658神戸市東灘区御影本町2-4-23千鳥荘3号⑤護身できるようになるため。体調の不調を回復させるため⑥ライフスタイルの一部⑦四方投げ(四方斬り)-タイミングをつかみやすい⑧精進する気力が強くなった。臆病さが薄くなった⑩一つの道に熱心で仲間意識が強く、いつまでもそうであってほしい

スミオカ ミキ

住岡美樹
(中2)

: ①6級②7年③〒652神戸市兵庫区石井町6-1-2④521-7395⑤友達にさそわれて⑥青春だ!⑧強くなった(STRONG)⑩仲よく楽しく合気道をやりましょう

リ シュキ

李 珠貴
(中2)

: ①5級②7年③〒652神戸市兵庫区雪御所町15-10④531-4409⑤お父さんのすすめで⑥ストレス解消。楽しい⑦天地投げ-試験に使った技⑧友達がふえた⑨合気道の技は全部で何種類ぐらいですか⑩調子に乗って女子や小さな子をたたき子がいるので絶対やめてほしい

カタヤマミズホ

片山瑞穂
(中1)

: ①7級②3年③〒652神戸市兵庫区湊山町16-14④511-1990⑤友達がやっていたから⑥たのしい⑦天地投げ-簡単だから⑧友達が出来た⑨わざはどのくらいあるのかな

テイ ナルヒロ

鄭 成浩
(小6)

: ①8級②6年③〒652神戸市兵庫区雪御所町13-10④511-0125⑤心身とも強くなるため⑥生きがい⑦いっきようおさえ-おもしろいから⑧たのしかった⑩まじめにしてください。しせいに気をつける

リ シュレイ

李 珠玲
(小6)

: ①8級②4年③〒652神戸市兵庫区雪御所町15-10④531-4409⑤姉が習っていて自分も習い始めた⑥体力作りによい⑦天地投げ-得意だから⑧仲間がたくさ

んできた。体力作りができる。姿勢がよくなった⑩女子の頭をたたいたり小さい子をけったりするのはぜったいやめてほしい

カタヤマ マヤ

片山摩耶 (小6) : ①8級②3年③〒652神戸市兵庫区湊山町16-14④511-1990⑤強くなるため⑥楽しい、少ししんどい⑦両手なげー前受身が好きだから

リ コウエイ

李 耿栄 (小4) : ①8級②3年③〒652神戸市兵庫区雪御所町15-10④531-4409⑤姉が習っていたからです⑥体によい⑦こきゅうなげーとくいだから⑧技は何しゅるいぐらいあるんですか

ニシシタ トオル

西下 徹 (小6) : ①8級②10ヶ月③〒652神戸市兵庫区雪御所町7-21④531-9711⑤心と体を鍛えるため⑥スポーツ⑧ちょっと体つきが変ってきた⑨この合気道の流派は何派ですか?

タケウチ コ

竹内ゆう子 (小3) : ①9級②9ヶ月③〒652神戸市兵庫区千鳥町1-7-1④531-8914⑤楽しそうだから⑥楽しい⑦天地なげー楽だから⑧友達ができたこと⑨技はどれぐらいあるか⑩しせいをよくすること

タカムラマサユキ

高村昌幸 (3) : ①10級②10ヶ月③〒652神戸市兵庫区石井町8-2-21-504④521-5777

タケウチリョウスケ

竹内亮介 (小2) : ①10級②9ヶ月③〒652神戸市兵庫区千鳥町1-7-1④531-8914⑤おねえちゃんがしたから⑥つかれる⑦てんちなげーおぼえやすい⑧すもうが強くなった⑩ちよっかいをださないでください

タカミ カオリ

高見 馨 (中1) : ①無級②3年③〒652神戸市兵庫区石井町4-2-20④511-9526⑤友達が入っていたから⑥楽しい⑦天地投げー理由は別がない⑧しせいがよくなった⑨技は全部でいくらぐらいあるか

☆ 独断回答コーナー ☆

問1: 精武館の合気道の流派は何ですか?

答: 合気道は今から約65年前に植芝盛平と言う天才的武道家によって創始され、戦後一般にも急速に普及されていった武道です。植芝盛平開祖を道主として昭和23年組織されたのが財団法人・合気会で現在はその子息である植芝吉祥丸現道主に引継がれています。

(財)合気会は国内に300以上の支部・道場と国外40ヶ国以上の支部に約100万人の登録者を持つ合気道の正統的かつ最大の組織です。精武館はこの合気会の神戸支部で今年で30年の歴史を持つ伝統ある道場です。

問2: 合気道の技はいくつぐらいありますか?

答: 創始者である植芝盛平翁は合気道の技はいくつあるのか、という質問に対して「基本になるのは三千ぐらいありますが、その1つ1つが16ずつに分れるから、その計算だと何万あるか分からないですね。事に応じてあらゆるものを生み出す根源ですから・・・」(「合気道」光和堂 S.32発行)とされています。代表的な基本技としては一教～四教、四方投げ、入身投げ、回転投げ、小手返し、天地投げ、呼吸投げなどがありますが、呼吸投げには決った形がないので無限であるともいえます。

神戸支部および関連道場案内

(財)合気会神戸支部・精武館道場

所在地：〒652神戸市兵庫区石井町8-2-12 ☎(078)521-3343

JR神戸駅より神戸市バス7系統に乗り「石井町」下車山側すぐ

代表者：山端一夫

稽古時間：火曜日 18:00-19:30

土曜日 18:00-19:30

日曜日 10:00-12:00

☆子供クラス 土曜日 16:30-17:30

会費：一般 2,000円/月 入会金 2,000円

☆子供クラス 1,000円/月 入会金 1,000円

神戸支部第二道場（中尾道場）

連絡先：〒650神戸市中央区北長狭通8-1-1 ☎(078)341-3980/341-6395

JR神戸駅/阪神電鉄・西元町駅北、宇治川商店街 藤内商店の西側すぐ

代表者：中尾眞吾

稽古時間：月曜日 19:00-20:30

火曜日 7:00- 8:00

水曜日 12:00-13:30 18:00-19:30

土曜日 10:00-11:30

会費：不要（希望者は合宿費用の積立）

P R：①懇切丁寧なプライベートレッスンなら、何と言ってもこの第二道場。

シャワー、風呂、男女別トイレ、宿泊施設完備。万年畳（本畳）で畳の
上げ下ろし無し。合気道研究にはもってこいの道場です。（山下秀夫）

②皆さんがんばっています（近沢亜希子）

明石道場（大蔵コミセン・合気道サークル）

所在地：明石市西朝霧丘4-7 大蔵中学内 大蔵コミセン1階 ☎(078)912-3620

JR明石駅東口ステーションデパート前より明石市バス「明舞団地行」

「朝霧駅行」「松ヶ丘5丁目行」「朝霧2丁目行」のいずれかに乗車し
「明高下」下車、徒歩2分

代表者：小久保宏 講師：濱崎正司

稽古時間：水曜日 18:30-20:00

会費：1,000円/月 年会費 1,000円

P R：水曜日に稽古を希望の神戸支部の会員の方へ！

中尾道場のほかにも明石大蔵コミセン合気道サークルへどうぞ。

70畳敷の道場でのびのびと稽古が出来ます。神戸支部の方は無料です。

編集後記：平成元年、神戸支部発足30周年という記念すべき年の精武館通信創刊号をお届けします。折りしも女優の和泉雅子さんの日本女性初の北極点到達という快挙のニュースが伝わってきました。かつての合気道仲間である和泉さんを4年前の挫折を乗り越えて北極点に立たせたものは何だったのでしょうか。自分の夢を大切に守り育てゆくプライドだったのかもしれない。本部の佐々木師範は楽しくなければ合気じゃない、美しくなければ合気じゃないと言われていました。この素晴らしい合気道を通じて結ばれている我々の人生にも、所々に感動・感激がちりばめられていたいものです。本紙は今年の稽古始めの小久保さんの発案と支部の皆さん、特に中尾さんの絶大なる御協力と叱咤激励によって発刊できました。第2号の特集のテーマ他について御意見をお寄せください。（編集・文責：和田正志）